

1.2 神学研究科

1.2.1 理念・目的・教育目標

【評価項目 0-0-1】 理念・目的等

(必須要素) 大学院研究科の理念・目的・教育目標とそれに伴う人材養成等の目的の適切性

(必須要素) 大学院研究科の理念・目的・教育目標とその達成状況

<2003年度に設定した目標>

神学研究科は、関西学院創立時の「キリスト教の伝道に従事すべく選ばれた者を鍛錬する」という基本理念を具現化するため、キリスト教宣教のための高度な専門的知識を具えた職業人を育成することを使命としている。キリスト教界、とくに教会やキリスト教学校教育、社会福祉や社会活動の領域において指導的な役割を果たす人材を送り出し、また神学の領域では独創的な研究者を生み出すなどの実績を残してきたが、今後もこれを継承発展していく。

神学研究科では、神学を専攻領域とし、その中に、8つの研究分野（旧約神学、新約神学、歴史神学、宗教学、キリスト教学、宗教哲学、実践神学、臨床牧会学）を設けている。学生各自が研究主題を選び、指導教員との学問的、人格的な触れ合いによって、それを深め、学位（修士、博士）を取得できるよう、研究と教育を行っている。また博士課程前期課程においては、キリスト教会の指導者となるための実践的な能力を育成するカリキュラムをも導入している。

教育目標および人材育成の目標については以下のとおりである。

1. キリスト教神学、キリスト教思想・文化の高度な研究の推進

神学の基礎的な知識に裏打ちされて、専門的な知識と思索を深め、各自の専門領域において、優れた特色ある研究を行えるよう、指導する。

2. キリスト教の宣教に従事する専門的職業人（伝道者）の育成

ことに博士課程前期課程においては、礼拝の指導者、説教者、牧会者として宣教の現場で直ちに活躍しうる人材育成を目指す。さらに、教会などのフィールドで経験したことを理論的に反省し、それを再び実践へと活かすことのできる能力を育成する。

3. 総合的な知を身につけた社会人の育成

キリスト教の本質にふれつつ、幅広くキリスト教に関する知見を養い、多元化社会において深い見識をそなえ、具体的な社会や世界の問題を発見し、これとキリスト教的な立場から取り組み、解決できる人材を育成する。

(現状の説明)

神学研究科神学専攻は、教会教職（牧師・伝道師）や教育職員（宗教科・聖書科教員）の育成、並びに研究者の育成を目的とし、博士課程前期課程及び同後期課程を設置、キリスト教神学、キリスト教思想・文化の高等教育機関としてその任務を果たしている。1952年の創設以来、285名に修士学位を、11名に博士学位を授与してきた。

伝道者の育成は、学部4年と前期課程2年の6年一貫の成果に基づき、主に日本基督教団教師検定試験を経て行われているが、教団以外の他教派の教職を志願し、任職した者も存在する。また教育職員（宗教科・聖書科教員）として活躍する者も多く、大学において教鞭を執る者もこれまで30名以上輩出している。

＜前期課程終了後、伝道者となった者の数＞

年 度	修了者数	伝道者となった者の数	割 合
2004年度	11名	7名	63.6%
2003年度	5名	5名	100.0%
2002年度	13名	11名	84.6%
2001年度	11名	10名	90.9%
2000年度	10名	10名	100.0%

＜後期課程修了・満期退学後、伝道者となった者の数＞

年 度	修了・退学者数	伝道者となった者の数	割 合
2004年度	3名	3名	100.0%
2003年度	4名	3名	75.0%
2002年度	1名	1名	100.0%
2001年度	1名	1名	100.0%
2000年度	0名	－	－

キリスト教界にあって、その働きは、教団大阪教区総会議長・兵庫教区総会議長・九州教区総会議長、あるいは日本聖公会首座主教、日本バプテスト連盟常務理事、在日大韓基督教会総幹事などの役職をとおして指導的な役割を担っている。さらに大学における教員として教育研究に携わる者、各地のキリスト教学校およびキリスト教主義の病院において教諭（宗教主事）やチャプレンなどの働きを担っている者も存在する。

伝道者として既に働きを行っている者が、教会等での実践を踏まえ、キリスト教神学、思想・文化の高度な研究のために後期課程進学を志願している。

また、教育目標としているキリスト教神学、キリスト教思想・文化の高度な研究推進のために、従前から後期課程の受験資格にバプテスマ（洗礼）を受けた者という条件を除いている。そして研究者としての育成に主眼を置いている。

（点検・評価の結果）

人材の育成については、伝道者としてキリスト教の宣教に従事する者だけでなく、学会等の研究面で活躍する者など、キリスト教界において高く認知されていることから、神学研究科の教育目的・目標は適切に反映されていると言える。

キリスト教界における専門的職業人を育成するという理念はある程度実を結んでいる。ただし、大きく変動しつつある現代社会の中でいかなる伝道者またはキリスト教指導者を育てるか、今後明確なビジョンを打ち出す必要がある。

(改善の具体的方策)

理念・目的・教育目標についてはこれを堅持し、さらに発展させるために、伝道者像を明らかにすること、キリスト教思想・文化の研究領域を拡充していくことが課題となる。どのような伝道者または研究者を育成するのかについて将来構想委員会の課題とし、検討を進める。